

金管バンドによる地域との連携

～ 地域の誇り

『わが町の学校』をめざして ～

東久留米市立第三小学校



1 学校の概要

東久留米市は、都心から北西へ約 24 kmの近距離にもかかわらず、東京都で唯一「平成の名水百選」（環境省）に選定された落合川と南沢湧水群を持ち、雑木林などとともに武蔵野の自然が色濃く残る“水と緑とふれあいのまち”である。本校の学区にも北に黒目川、南に落合川が流れ、夏になると子供たちが元気に川遊びをする姿を見ることができる。

近年は、駅周辺を中心とした開発が進み、マンションや複合施設など、都市化の一面も見せ、大変便利で活気のある町となってきた。本校は、その中心的地域に位置し、学区内に市役所や生涯学習センターなどがある。

創立 50 周年を迎えようとしている本校は、保護者・地域の皆様との連携を柱に、地域に根ざした“わが町の学校”をめざしている。受賞の対象となった金管バンドクラブの活動は、その中核を担っており、平成 18 年度に金管バンドを 20 年ぶりに復活させ、地域の方々から「地域の誇り」とまで言われるまでに育ってきた。本市の小学校では本校の金管バンドが唯一の存在であり、その功績を高く評価していただいたものと受け止めている。

学級数：22 学級（内、特別支援学級 4） 児童数：647 人（内、特別支援学級 29 人）

2 教育活動実践の内容

(1) 沿革

平成 17 年度 音楽クラブの中で児童 4 名が金管楽器の演奏を開始。

平成 18 年度 金管バンドクラブとして復活。学校行事の際に演奏を披露。

平成 19 年度 市教育委員会の行事で対外的な演奏を発表。

平成 21 年度 社会を明るくする運動、市民の夏まつり、歳末助け合い運動で演奏するなど地域行事にも積極的に参加。

平成 22 年度 教員の指導体制を 4 人に増強。クラブの在籍数も 42 名と増員。

地域等からの出演オファーはすべて承諾。

日本管楽合奏コンテストに参加。優秀賞を受賞。



(2) 経緯と成果

本校の金管バンドは、かつて、TBS東日本大会に東京都代表として出演したり、東京都吹奏楽コンクールで招待演奏をするなど、大変活躍していた団体である。しかし、中心となって指導していた教員が転出するなど活動が停止してしまっただ。保護者・地域からは、金管バンド復活が望まれていたものの、専門的な知識や技能を有する指導者が不在であること、学校体制を整えられないこともあり、20年間ものブランクが空いてしまっていた。

平成17年度、クラブ活動の音楽クラブで、金管楽器の演奏に興味をもち、希望の有無を聞いたところ、4人の児童がやってみみたいと名乗りを挙げた。月に数回のクラブの時間を利用しながらの練習では、技能の大きな向上は厳しかったが、各自それぞれのレベルで演奏できるようになり、最後は簡単なアンサンブル曲を演奏することができた。この年度の音楽クラブ担当教員は、音楽専科の林美由紀教諭と本校に初任で採用し2年目の谷口良二教諭で、金管楽器の指導については谷口教諭一人が担当しており、熱心な指導の功績と言える。

翌18年度、前年度の実績と、かねてからの保護者・地域からの要望を受け、音楽クラブを金管バンドクラブとして改めて新設した。その際、谷口教諭と林教諭（19年度は浦川貴子・産育代替教員）以外に、吹奏楽の経験がある芳井伸彦教諭（19年度から泉浩子教諭と交替）を加え、3名体制で指導することとした。クラブの時間以外に、朝練習を週2回行ったり、夏季休業中も練習をするなど練習量を増やし、児童の技能の向上が見られた。そして、運動会の行進曲で演奏を披露すると、校内だけでなく地域からも高い評価を受け、金管バンドの活動を認めていただき、名実ともに金管バンドの復活となった。部員数は約20名である。

19年度は、部員数も約30名と増加し、朝練習を週3回行うなど、活動も本格的に軌道に乗り始め、市教育委員会の特色ある学校教育の報告会である「スクールフェスタ」で、対外的に演奏を披露することもでき、校外での演奏の経験を積むことができた。それとともにクラブ員にとっては大きな自信につながっていった。20年度からは、児童の連続した活動を促すためにも、4月当初の1年生を迎える会での入場曲の演奏を行うなど、校内外で、年間を通して発表に向けた練習体制を築くことができ、ますます活動は充実していった。

東久留米市
「市民プラザ
夏祭り」
オープニングを
飾る本校の金管
バンドの演奏



復活4年目となる21年度には、「社会を明るくする運動」に参加し、中央公民館の舞台上で演奏する機会をいただくとともに、「市民プラザ夏まつり」では、楽器紹介など音楽教室的な発表も行うことができた。12月の「歳末助け合い運動」では、地域の宝と評されるようになった。1月には、研究発表会の講演前のオープニングアクトとして、活動の紹介とともに演奏するこ

とができ、児童らの努力に対して大いに評価を上げた1年間であった。

そのため本年度は、金管バンドを本校の特色ある教育活動に位置付けるとともに、本市の特色とも言えるように、指導教員を4人（谷口教諭、林教諭、泉教諭、平山光子教諭）とするなど、学校全体で金管バンドの活動に協力できる体制を築いた。また、練習場所も常時活動できるように、音楽室から第二音楽室へと移動し、取り組みを強化している。さらに、全教職員の理解と協力のもと、様々な配慮、バックアップ体制が取れるようになり、入学式や「にこにこフェスタ」（子ども祭り）での演奏も初めて行い、活動の幅を広げている。

「社会を明るくする運動・音楽祭」「市民プラザ夏まつり」という地域での発表を継続するとともに、今年度は初めてコンクールにも挑戦しようと、日本管楽合奏コンテストに参加し、優秀賞をいただくことができた。



(3) その他特記すべき事項

- ア 外部の専門家や指導者がいない状況で、教員だけの力で指導している。
- イ 朝や長期休業日期間の練習など、勤務時間以外も積極的に指導に当たっている。
- ウ すべての楽器が老朽化するなか、自助努力で修理するなど工夫しながら取り組んでいる。
- エ とりわけ、地域からの演奏や協力の要請には、すべて応えるように努めている。

3 まとめと今後の展望

本校は、歴史と伝統のある地域に根ざした学校として、地域の誇りとなる『わが町の学校』をめざしている。そのためには、まず教職員が地域の学校という認識を一層高め、児童とともに地域行事に積極的に参加し、地域に貢献する姿勢を持たなければならない。

学校としては、金管バンド以外にも、4年生全員が「市民みんなの祭り」でダンスを披露したり、5・6年生が「ほたるを呼びもどす会」に行燈を作成して提供するなど、積極的な参加を継続している。また、多くの児童が地域行事である「わんぱく相撲」「エコゲーム」「わくわく川あそび」「市民文化祭」等々に意欲的に参加している。

また一方、「ほとけどじょうを守る会」や「お米マイスター」など、地元の団体の方々が出前授業に来て下さるなど、ご協力を仰いでいる。さらに、遊び場開放や登下校の見守り隊など、保護者ボランティアによる学校教育への参加・協力も高まってきた。とりわけ、図書ボランティアは定期的集まり、労をいとわずに活動していただいている。今年度も図書館の全面改装、蔵書管理システムによる所蔵登録など、大きな成果を上げている。

これからの学校は、教職員の力だけでは動いていかない。保護者や地域の力をお借りすることによって、よりよい教育が実現できる。今後も保護者・地域と緊密に連携・協力し、保護者・地域に信頼され、尊敬される学校づくりに努めていきたい。教育のプロ集団として、教職員と児童、保護者、地域、行政等が一丸となった教育を推進していく。